

Canforo

カンフォロ

Exhibition 企画展 1

愛媛県美術館ニュースNo.31 2006

No. 31

魚のすがた展 —みる、釣る、喰^{くら}う、祈る、遊ぶ

平成18年10月12日[木]—11月26日[日]

休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

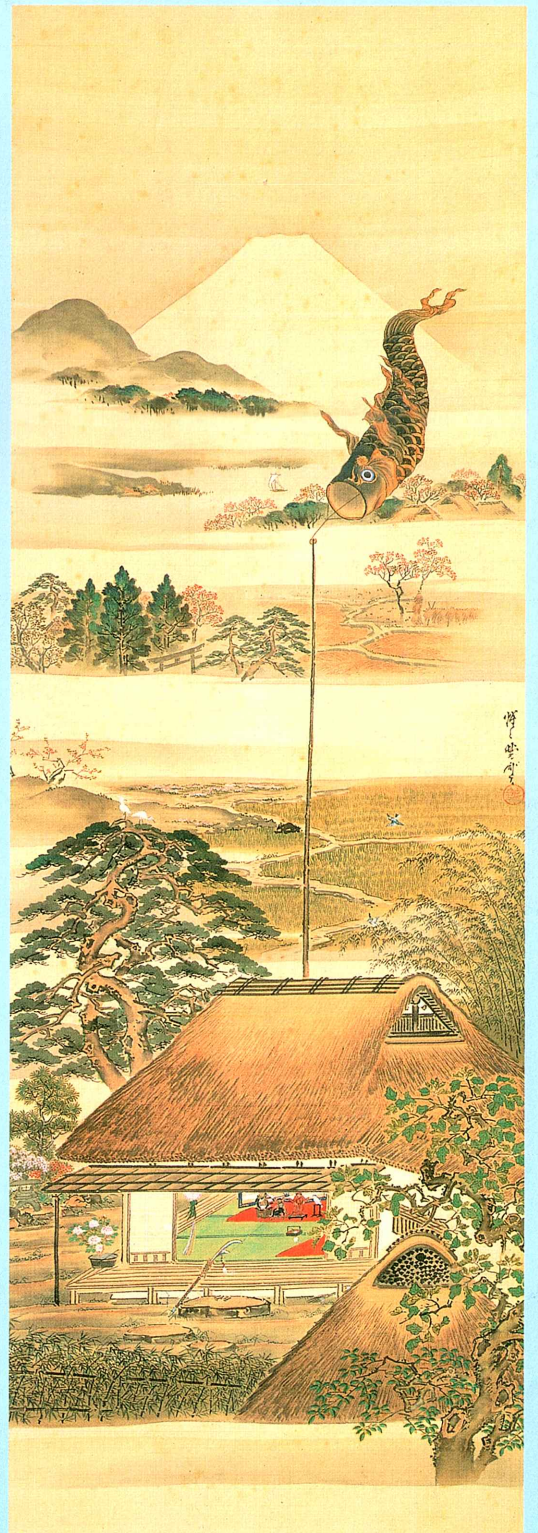
●会場/新館1階[企画展示室]・2階[常設展示室1・2]

魚というのは私たちにとって身近な存在です。あまりにも身近に過ぎて、それについて深く考えることもないかもしれません。でも、大昔から現在までの長い歴史を通じて私たちの日常生活を彩ってきた魚たちには、歴史の中で蓄積されてきた文化的な意味の厚みがあります。そして文化的な意味の歴史は当然、絵画・彫刻などの表現の歴史にも反映されるものです。

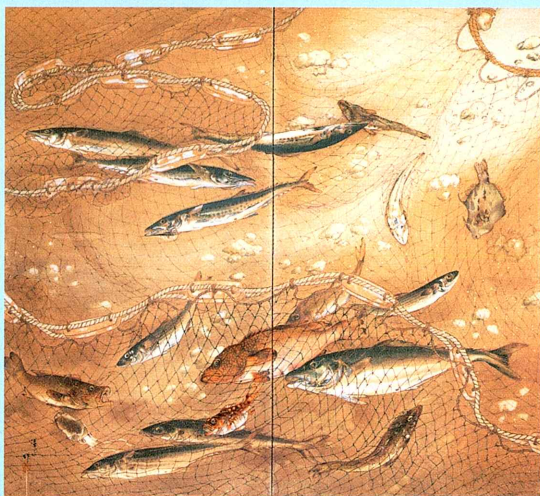
例えば鯉。江戸時代の円山応挙をはじめ多くの画家たちが鯉を描いています。水族館のなかった当時、生きて動いている魚を知りたいければ、寺院や御殿の庭園にある池で遊泳する鯉を観察するのが最善の道でした。だから多くの画家たちが鯉の絵を無数に制作したのは当然ともいえますが、同時に、そもそも鯉という画題にはもっと「めでたい」意味があって、そのゆえに好んで絵に描かれたという側面もあるのです。登龍門という言葉をご存知でしょう。中国の黄河の上流に龍門と呼ばれる急流があり、鯉がそこを登れば龍に変身するという伝説を表す言葉です。転じて、試験に合格して栄達する意味と化し、現在でも立身出世のための関門をいう言葉としてよく用いられています。昔の画家たちが鯉の絵を数多く制作したのは、立身出世して幸福になりたいという普遍的な祈りを託す画題として人々に愛されたからにほかなりません。

今回の展覧会の出品作の一つ、河鍋暁斎の掛軸《四季風景五月幟図》には大きな鯉幟が描かれています。住居の座敷には甲冑や金太郎、鍾馗、鷹などの立派な人形も飾られているのが見えます。これらは全て子どもたちの将来の幸福を祈るためのものであり、当然この絵にもそうした祈りがこめられているに違いありません。

学芸員 梶岡 秀一



河鍋暁斎《四季風景五月幟図》絹本着色掛軸 虎屋蔵



伊藤渭水《魚群之図屏風》紙本着色二曲屏風一隻 個人蔵

関連イベントは裏面をご覧ください。

愛媛の名工 ふれあい展 II -しあわせな和のかたち-

す いよ かすり のぼり
手漉き和紙・伊予絣・水引・姫だるま・姫手まり・幟

会期 / 平成19年1月5日[金] - 1月28日[日] 休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

●会場 / 新館1階 [企画展示室]

※1/5は開展式を行うため、一般の方の入場は、11時からとなります。

この展覧会は、昨年度に引き続き、愛媛県の伝統工芸に携わる職人が手がけた工芸品を紹介するものです。愛媛県には、手漉き和紙や絣等、紙や布を用いた、軽やかで繊細な技が伝えられ、私たちの生活に彩りと安らぎをあたえています。本展覧会で間近に匠の技を知り、楽しみ、また職人とのふれあいを通して、皆さんが身近な工芸へと改めて目を向け、これらの貴重な財産を未来へと伝えてゆく契機となれば幸いです。 学芸員 杉山 はるか

会期中、職人さんの実演や、水引の体験講座、みんなで鯉のぼりの鱗を彩色するイベント等開催します。皆さんの参加をお待ちしています!

■ 手漉き和紙 (大洲和紙・周桑和紙・伊予和紙)

日本が世界に誇る和紙。美しいだけではなく、丈夫で長い年月にも耐える優れた品質を持っています。愛媛では紙漉きの技が古から伝わり、江戸時代には浮世絵の専用紙として重用されたといわれています。

漉きたての和紙
資料提供/(株)天神産紙工場



■ 姫だるま

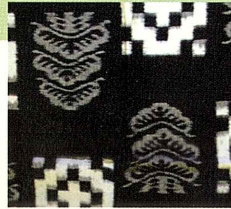
ふっくらとしたやさしいかたちのだるまさん。お祝いの印として贈られます。じっと見ると一つ一つ表情が異なっています。

資料提供/渡辺供子氏



■ 伊予絣

日常生活に深く根ざした絣。藍で染めないうところに糸をくくり、染め上げた後に手織りします。縦糸と横糸が交わり、浮かび上がる絵柄は味わい深く、暖かい風合いを醸し出しています。



資料提供/民芸伊予かすり会館

■ 姫手まり

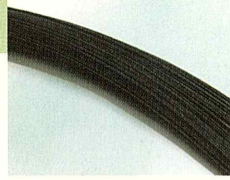
色鮮やかで光沢のあるまんまるの手まり。色とりどりの糸を丁寧にたぐり、組み合わせ、花のように咲かせます。

資料提供/田村久子氏、田村美幸氏



■ 水引

紙をねじって糊をつけ、細い艶やかな水引ができあがります。さらに、様々な色を複雑に編みこんで、見事な龍や松がかたちづくられるのです。



黒に染め上げられた水引の束
資料提供/合田水引店

■ 幟

空に舞う鯉のぼり。一番大きな真鯉は長さが12メートルにもなります。近頃は大きなのぼりはほとんど見られなくなりました。子どもたちの成長を願い、美術館の展示室で揚げる鯉のぼり。ぜひ見に来てください。

資料提供/黒田旗幟店



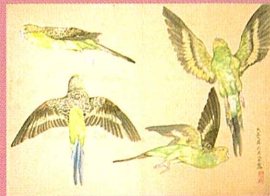
特集展

動物のすがた展

平成18年10月5日[木] - 12月4日[月]

休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

●会場 / 愛媛県美術館2階 [特別展示室3]

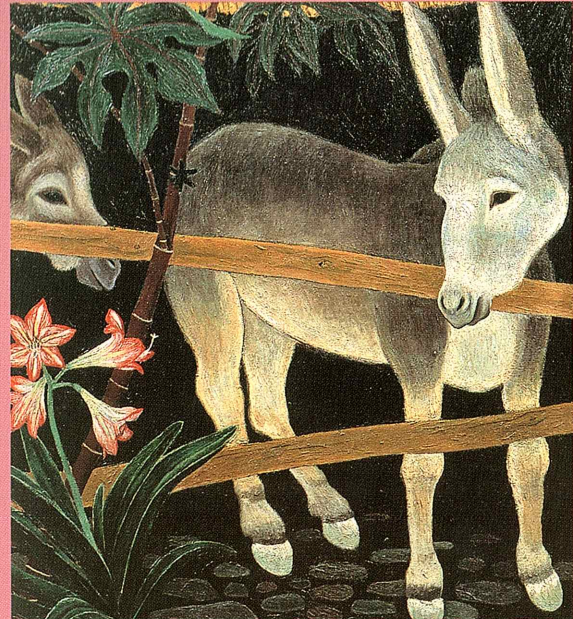


木和村 創爾郎 (写生帖)

画家達は、自然界に生き、また家畜として、愛玩の対象として常に共にある存在の動物を「恰好のモチーフ」としてきました。時にはその愛らしいすがたへ愛情あふれる視線を注ぎ、時には野性への畏敬の念を込めて、時には人間になぞらえて、さまざまな動物のさまざまなすがたを描いています。今回は、愛媛県美術館所蔵作品の中から動物を描いた作品を展示します。そこには、動物の姿や動きを凝視して描いたものから、デフォルメしたものまで、さまざまな表現が見られます。ここに紹介する木和村創爾郎(1900-73)の「写生帖」は、木和村が日本画を学んでいた時期に、動植物を写生したものです。木和村は、後に版画家として活躍し、モチーフを色面で大胆に構成した作品が知られますが、本作品は、鳥の細部まで見つめた写生図で、木和村の画家としての基礎が何処にあったのかうかがえる興味深い資料です。

このたびの展示で、画家の動物へ注ぐまなざしをご覧いただき、人と動物の関わりに思いを巡らせる機会となれば幸いです。

学芸員 西田 多江



北川 良次 (口元)

「たんけん!はっけん!えどワールド!!!」

美術館では昨年から来館者自身が「自分の目でみる」、ということに主眼をおいたプログラムや展示を常設展や企画展で展開しています。その中のひとつ、『たんけん!はっけん!』プログラムは、「指令書」と呼ばれる答えが一つに決まっていない問いが記されたシートをもとに、参加者が自分の目で作品とじっくり向き合い、自分の考えをまとめ、それをきっかけに展示室内のスタッフと対話を行う、ということが特徴になっています。この「決まった答えがない」指令を考えることは美術館でも毎回苦勞と反省の連続ですが、たんけん!はっけん!に一つしか答えがないものを求めるのと違って、ひとりひとりの子どもたちの思考の広がりを後押しするのに大変な力を発揮してくれるため、頭を悩ませながらも実は考えるのが楽しい問いとなっています。また、展示室で子どもたちの話を受けとめるスタッフには、子どもの言葉をゆっくりと待ち、受けとめ、広げ、そして、それぞれの子どもの思考と成長に応じて作品情報をバランス良く伝える、というとても高度なテクニックが要求されるのですが、今夏のプログラムでもスタッフ一同ドキドキの心境で子どもたちを迎え、毎日反省と歓びの連続でプログラムに携わりました。最後に、プログラムに参加されたお子さんの保護者の方からこんなお手紙を頂きました。

「子どもたちにこういった本物の美術にふれる機会をつくることは、とても意味のあることだと思います。特に今回のように、子どもたちならではの視点で鑑賞することは、ただ解説をみながら絵画を眺めていくよりも、心のもっと深いところに働きかけるのではないかと思います」

目には見えない場所に向けて、これからも丁寧にがんばっていきたいと思います。学芸員 鈴木 有紀



素材の時間“紙”



今年度の実技講座「素材の時間」では、「紙」にこだわりを持つことにしています。単発でも参加でき、繰り返し受講すると、紙の創作体験が色々できるようになっています。

まず、6月に開催した『紙に遊ぶ』では、小さな紙を沢山使って遊びました。紙をちぎってその中に潜って遊んだり、小さな紙を使って紙すきを体験したり、小さな色紙を貼ってモビールを創ったりしました。夏休みに開催した『紙の造形』では、紙の虫、その名も“ペーパー虫”を作ることになりました。ダンボールや水引という素材感の全く異なる紙を使って2種類の昆虫を作り、そのペーパー虫の住処まで紙で作りました。暑い中、中庭に誕生していた巨大昆虫も、この講座で創ったものです。水引を使ったペーパー虫の講座では、伝統工芸士の井川直正氏をお迎えし、水引の組み方を教えてもらいながら、色鮮やかなペーパー虫が生まれました。

1月には、『紙で祝う』として、版画で模様をつけたポチ袋や水引で飾った祝儀袋を作る予定です。お楽しみに。

学芸員 田代 亜矢子



TOPICS

のぞいてみよう! アトリエ同好会

当館のアトリエは設置してある機材を使って自由に制作が行えるスペースとして、多くの方にご利用いただいています。そのアトリエにおいて、この4月、制作を始めて間もない人、制作技法などに不安を抱えている人、といったアトリエ初級者をサポートする「アトリエ同好会」が誕生しました。利用者(作り手)同士で、制作技法の理解を深めるため、情報交換しながら学びあうことで、個々の制作上の問題を解決し、制作レベルの向上を図ることができればと願っています。今年はピンホールカメラをテーマにカメラ作りや撮影、現像などをみんなで試行錯誤しながら取り組み、そのおもしろさを追求しています。ぜひ同好会に参加して、創る過程の楽しさを一緒に実感してみませんか。

この秋には、同好会でピンホールカメラの熱が高まっていることもあり、ガラスの球体をピンホールカメラにし、その内部に風景を写し込む作品を制作する大竹敦人氏を招いて、ワークショップと作品展示を計画しています。こちらをご期待ください。

学芸員 石崎 三佳子

※ピンホールカメラ…針先で小さな穴をあけた暗箱の中にフィルムまたは印画紙をセットし、穴から取り込まれた光によって像を写す装置。

■ 会 期：月1回 13:00～ ※アトリエ・HPIにて告知しています。

■ 会 場：アトリエ2

参加希望の方は、開催日に会場にお集まりください。



ハコの中のスクリーンに風景が逆さに写っているよ!



お知らせ



(乳化館)2001年 東京国際フォーラムでのインスタレーション

大竹 敦人

サイト・スペシフィック・ワークス
「風景を閉じ込める球体写真」

ワークショップ

11/4(土)・5(日)・11(土)・12(日)

作品展示

11/10(金)～26(日)

*詳細については、当館普及係までお問い合わせください。

「魚のすがた展」イベント情報

魚や海川をめぐる古今の名品が集う「魚のすがた展」(10/12~11/26)。

聴いて納得の講演会から美術館初の魚市まで、関連イベントも盛りだくさんです。見て、聴いて、食べて・・・お魚尽くしの秋を満喫してみませんか？

<h3>さかなクントーク</h3>  <ul style="list-style-type: none"> ● 日時:10月21日(土) 13:00~15:00 ● 要申込 ※企画展観覧券が必要です。 	<h3>記念講演会</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時:11月3日(金・祝) 13:30~15:00 ● 申込不要 ● 講師:並木誠士 (京都工芸繊維大学教授) 	<h3>学芸員によるギャリートーク</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時:会期中毎日曜日 14:00~ ● 申込不要 ※企画展観覧券が必要です。 	<h3>魚づくし14選 ボランティアによる対話型トーク</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時:会期中毎土・日曜日 11:00~ ● 申込不要 ※企画展観覧券が必要です。
<h3>美術館で水族館</h3> <p>あなたの描いた魚の絵を美術館に飾りませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 募集期間:9月20日(水)~27日(水) ● 要申込 ※応募方法については美術館ホームページをご覧ください。 	<h3>美術館で魚市</h3> <p>八幡浜の新鮮なお魚が浜値で即売されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時:会期中、10月の毎金・土・日曜日 10:00~17:00 ※11月の日程はお問合せ下さい。 	<h3>シーボーン・アート</h3> <p>貝殻などを使って海のアートに挑戦。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時:11月5日(日) 10:00~12:00 申込不要 [かんたんオブジェ] [スタンドグラス風プレート] 14:00~16:00 要申込 	<h3>藤部さんと石の魚をつくろう</h3> <p>彫刻家 藤部吉人さんの指導で、石の魚(石彫)をつくってみませんか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時:10月29日(日)、11月3日(金・祝) 10:00~16:00 ● 要申込

※イベントのお申込み、お問合せは美術館学芸課 (tel.089-932-0010) まで。

INFORMATION

美術館分館「萬翠荘」の改修について

美術館分館として活用されている「萬翠荘」が1922年建設以来、初めての大規模改修がこの秋より行われます。定期的に開催していましたが所蔵品展については、しばらくお休みさせていただきますので、ご了承ください。また、建物の見学等については、美術館までお問い合わせください。



報告「平成18年度愛媛県美術館協議会」について

愛媛県美術館において、9月7日(木)に「平成18年度愛媛県美術館協議会」が開催されました。本協議会の委員については、本年度は改選期に当たり、14名の委員のうち、9名が再任、5名の方が入れ替わり、2年間の任期で新たなスタートを切りました。今回は、併せて会長・副会長の選任が行われ、会長には、愛媛県美術館友の会会長の一色哲昭氏が、副会長には愛媛県美術館会長の川端正氏が再任されました。当日の協議会では、(1)平成17年度事業等の経過報告について(2)平成18年度予算及び事業について(3)中期運営計画の進捗状況について(4)その他 を議題として、委員各位による熱心な審議が行われ、委員の方々からは、●美術館同士のネットワーク、連携は今後重要である。●学校教育との連携の点では、今後とも、文化教育に地域差をつけないために、文化に対する子供への教育を美術館がカバーしていくことが大切である。●魅力ある展覧会の開催を前提として、いわゆる団塊の世代を含むシニアの世代を対象としたサービス等を検討してみたいのではないか。などの意見や要望が出されました。愛媛県美術館では、今回の審議内容にもとづき、県民の皆様方の美術館に対する多様なニーズに対応した美術の普及・振興に努めつつ、にぎわいがあり、特色のある美術館づくりを進めて参る所存です。

美術館開館記念日

毎年恒例の開館記念日は、展覧会の観覧料が無料になります。講演会やコンサートなど様々なイベントを用意していますので、芸術の秋の1日を美術館で過ごしてみませんか。

11月26日(日)

美術館日記

「美術館の裏側・・・」

美術館を支えるスタッフシリーズ。今回はいつも美術館をびかびかに磨いてくれる、清掃員の方を代表して、チーフの白水隆夫さんにお話を伺いました。

- お仕事の内容は？「美術館の建物と敷地内全ての清掃です。」
- 大切にしていること、大変なこと。「常に美を追求することを心がけています。しつこい汚れや臭いに苦勞していますが、きれいになったときには、達成感がありますね。」
- 特にここを見てほしい！「トイレと展望ロビーを見てください。」
- 清掃員を代表して一言。「美術館で心地よい「美」を体験してください。」〈インタビューー 学芸員 杉山はるか〉



ご利用案内 ■ 開館時間:9:40~18:00(入室は17:30まで) ■ 休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日及び振替休日当たる場合、毎月第1月曜日は開館、翌火曜日が休館。)

アトリエ 利用時間 9:40~18:00
創作活動のできるスペース、アトリエはどなたでも自由にご利用いただけます。お申し込みは、お電話か、直接来館して予約してください。
●利用内容:版画・木工・染織・写真・粘土など
●お問い合わせ先:ふれあいアートセンター tel.089-932-0147

講堂・研修室・県民ギャラリー
講演会、研修、作品発表の会場として講堂(定員120名)、研修室(定員56名)、県民ギャラリー(12室)がご利用いただけます。料金等、詳細については、当美術館総務課まで、お問い合わせください。

ハトの声(編集後記)

当館で実施している講座では、いろいろな材料を必要とします。できるだけ予算をかけないように材料調達に工夫を凝らして、時にはゴミ(?)となる寸前のもを使うこともあります。先日もち分しようとしていた針金をひきとってきた。美術館は何でもアートにしてみます!(M.I.)

休館日のお知らせ

10	11	12	1
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4 5 6 7	・ ・ ・ 1 2 3 4	・ ・ ・ ・ 1 2	・ 1 2 3 4 5 6
8 9 10 11 12 13 14	5 6 7 8 9 10 11	3 4 5 6 7 8 9	7 8 9 10 11 12 13
15 16 17 18 19 20 21	12 13 14 15 16 17 18	10 11 12 13 14 15 16	14 15 16 17 18 19 20
22 23 24 25 26 27 28	19 20 21 22 23 24 25	17 18 19 20 21 22 23	21 22 23 24 25 26 27
29 30 31	26 27 28 29 30	24 25 26 27 28 29 30	28 29 30 31



愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511
<http://joho.ehime-iinet.or.jp/art/>